

事業報告書

〔自 2019年4月1日 至 2020年3月31日〕

1. 事業概要

当財団は、1974年の設立以来、「人間のより一層の幸せを目指し、将来の福祉社会の発展に資する」ことを目的に、生活・自然環境、社会福祉、教育・文化等に関する様々な研究や事業に対して、「先見性」・「市民性」・「国際性」の三つのキーワードを軸として助成を行ってきた。

2019年度においても、これまでの取組みの理念を踏まえつつ、財団を取り巻く内外の環境変化や財団のリソースを考慮し、助成プログラムの中に＜特定課題＞を設けることで、より社会的意義の大きい、トヨタ財団の名の下に助成するに相応しい領域に重点化を図った。また、これまでの助成プログラムである＜一般枠＞についても、取り組むべき課題をより明確にし、社会問題の解決、社会への還元を図ることを企図したプロジェクトへの助成を行った。

- (1) ＜特定課題＞として、前年度から取り組んでいる「先端技術と共創する新たな人間社会」(7件・40百万円)に加え、新たに「外国人材の受け入れと日本社会」(7件・45百万円)の2つの特定課題プログラムに取り組んだ。
- (2) 国内助成プログラムについては、前年度に続き「しらべる助成」「そだてる助成」「発信提言助成」の3つの枠組みで、「担い手育成」と「課題解決の仕組み構築」の視点を重視したプロジェクトに対する助成を行った。(計28件・101.77百万円)
- (3) 研究助成プログラムについては、当年度も基本テーマを「社会の新たな価値の創出をめざして」とし、世界を俯瞰し未来を見通す広い視野をもちながら、これからの社会が対応を迫られる困難な課題と向き合う、学際的・領域横断的な研究に対する助成を行った。(12件・60百万円)
- (4) 国際助成プログラムについては、当年度も基本テーマを「アジアの共通課題と相互交流 ―学びあいから共感へー」とし、日本を含む東アジアと東南アジアの共通課題に対する「2国以上の地域実践者による国を越えた現場交流・課題解決」に取り組むプロジェクトへの助成を行った。(9件・70百万円)
- (5) イニシアティブ・社会コミュニケーションの非公募プログラムについては、NPOの基盤強化や市民参加の促進など非営利セクターの発展に資するプロジェクトや助成プロジェクトの成果や手法などをインパクトのある形で社会に発信・普及させる取組みに対する助成を行った。(計16件・50.65百万円)

＜2019年度助成実績＞

助成プログラム		応募件数	助成件数	助成金(千円)	予算(千円)
公 募	特定課題 先端技術と共創する新たな人間社会	32	7	40,000	40,000
	特定課題 外国人材の受け入れと日本社会	90	7	45,000	40,000
	国内助成プログラム	341	28	101,770	110,000
	研究助成プログラム	152	12	60,000	60,000
	国際助成プログラム	147	9	70,000	70,000
非 公 募	イニシアティブプログラム	—	15	42,150	35,000
	一般枠	—	8	33,330	25,000
	(国内助成プログラムパイロット)	—	7	8,820	10,000
	社会コミュニケーションプログラム	—	1	8,500	10,000
計			79	367,420	365,000

II. 助成内容

1. 特定課題「先端技術と共創する新たな人間社会」

前年度に引き続き、先端的な科学技術によって生じる社会的諸課題にかかわる分野を対象として募集した。応募要件についても前年度と変わらず、代表者は45歳までとし、分野・領域横断的なチーム編成による共同研究プロジェクトのみとした。また、技術開発が主たる目的のものは不可とし、分野・領域を架橋していること、国際的な研究・活動に資するものであること、具体的な成果発信・方法が明示されていることなどを要件として設けた。

公募説明を兼ねた中間報告会を開催し、助成プロジェクトの進捗状況を確認するとともに、公募の詳細を広く告知する機会を設けた。30名程度の参加者があり、本プログラムについての理解を広める良い機会となった。また、奈良先端科学技術大学院大学でも公募説明会を開催したほか、主要大学等への案内やNPO・NGO関連の情報ウェブサイトへの掲載など、前年度よりも幅広い周知を行った。

公募の結果、応募総数は32件、そのうちの7件を採択した。

(1) テーマ： 「先端技術と共創する新たな人間社会」

(2) 公募期間： 2019年10月7日～12月6日

(3) 助成実績

上段：2019年度

(下段：2018年度)

応募件数	助成件数	助成金額(千円)	予算(千円)	採択率
32	7	40,000	40,000	21.9%
(56)	(7)	(40,000)	(40,000)	(12.5%)

2. 特定課題「外国人材の受け入れと日本社会」

当年度より、外国人材の日本社会への受け入れに関し、基本的な課題の解明と対応の促進、人材の育成や連携の促進、プラットフォーム構築等に資することを目的に特定課題「外国人材の受け入れと日本社会」を設置した。

- ①外国人材が能力を最大限発揮できる環境作り
- ②外国人材の情報へのアクセスにおける格差の是正
- ③ケア・サポート体制を担う人材と既存資源の見直し
- ④高度人材の流入促進
- ⑤日本企業の海外事業活動における知見・経験からの学びと教訓

の5点を念頭に、助成対象者が調査・研究を行い、かつ助成期間中に課題解決や状況の改善に向けた仕組みや制度構築に取り組む、あるいは外国人材受け入れに関する諸課題についての知見を深めることを期待した。

2019年10月に公募内容の詳細(募集要項)を公表すると同時に応募受付を開始し、公募説明会を3回実施。計60名ほどの参加者を得たほか、事前の応募相談や問い合わせも50件ほどあり、応募件数は90件、そのうちの7件を採択した。

(1) テーマ： 「外国人材の受け入れと日本社会」

(2) 公募期間： 2019年10月1日～11月30日

(3) 助成実績

応募件数	助成件数	助成金額(千円)	予算(千円)	採択率
90	7	45,000	40,000	7.8%

3. 国内助成プログラム

前年度に続き「担い手育成」という趣旨は継承しつつ、仕事づくりから「課題解決の仕組み構築」の視点を重視した変更を踏まえ、基本テーマを「未来の担い手と創造する持続可能なコミュニティ ―地域に開かれた活力ある課題解決の仕組みを通じて―」とした。

助成の枠組みは、前年度と同様に「しらべる助成」「そだてる助成」(公募)、過去の助成先に限定して助成成果の発信や普及を通じて社会の仕組みや価値観を変えることを目的とする「発信・提言助成」を実施した(社会コミュニケーションプログラムにて対応)。

公募の2つの助成においては、2040年問題を想定した長期的な担い手育成への期待、重点領域の設定、持続可能性や発展可能性の観点からセクター間を超えた他組織との連携が図られている案件を優先的に採択することを打ち出した。

公募に際しては、国内助成プログラムの趣旨への理解や、2019年度の変更点や重視する点の説明、各助成の仕組みや期待する点などについての発信を重視し、各地のNPO支援組織などとの共催や協力の下、全国9か所で公募説明会を開催した。近年、行っていなかった地域で公募説明会を開催した効果などもあり、応募件数は341件となり2018年度(318件)を上回った。

また、社会課題の解決にあたっては、一部のリーダーの力に頼るだけでなく、当事者はもちろん市民一人ひとりが地域や社会をよりよくしようと主体的に活動に参加することが必要という観点から、「市民の参加」を促進するための助成をパイロットプログラムとして実施した(イニシアティブプログラムにて対応)。

助成以外の活動として、NPOの基盤強化を目的としてトヨタ自動車のマネジメントノウハウを学んでいただく講座であるトヨタNPOカレッジ「カイケツ」(第4期)も実施し、全国から20団体・30名が受講した。

「しらべる助成」 日本全国を対象とし、地域課題の解決に向けた本格的な事業を立ち上げるための事業戦略の立案までの一連の調査活動に対する助成

「そだてる助成」 日本全国を対象とし、地域課題の解決に向けて多様なステークホルダーと共に取り組む、課題解決の仕組みづくりや地域の担い手となる人材を育てることを目的とした事業に対する助成

「発信・提言助成」 プロジェクトの成果を社会に広く発信し、既存の社会の仕組みや価値観を問い直し、変えていくことをめざした政策提言や社会提案等の活動に対する助成

「市民参加促進プログラム」(イニシアティブプログラム) 市民参加の促進につながる仕組みづくりや担い手育成を目的としたプロジェクト、既存の研究の整理・分析を通じて、地縁組織の現状と展望を明らかにするプロジェクトへの助成

(1)テーマ： 「未来の担い手と創造する持続可能なコミュニティ ―地域に開かれた活力ある課題解決の仕組みを通じて―」

(2)公募期間： 2019年8月19日～9月30日(発信・提言助成は10月15日まで)

(3) 助成実績

上段：2019年度
(下段：2018年度)

応募件数	助成件数	助成金額(千円)	予算(千円)	採択率
341 (318)	28 (36)	101,770 (114,020)	110,000 (120,000)	8.2% (11.3%)

《2019年度の内訳》

	応募件数	助成件数	助成金額(千円)	採択率
しらべる助成	105件	16件	15,980	15.2%
そだてる助成	228件	11件	81,830	4.8%
発信・提言助成	8件	1件	3,960	12.5%
合計	341件	28件	101,770	8.2%
(イニシアティブプログラム) 市民参加促進プログラム	—	7件	8,820	—
基盤強化助成	—	6件	5,820	—
調査助成	—	1件	3,000	—

4. 研究助成プログラム

当年度も助成テーマを「社会の新たな価値の創出をめざして」とし、世界を俯瞰し、未来を見通す広い視野をもちながら、これからの社会が対応を迫られる困難な課題と向き合う、学際的・横断的な研究プロジェクトを募った。枠組みは、前年度と同じく、基本的に共同研究に対する助成とし助成総額は6,000万円とした。

若手研究者支援のため、引き続き代表者の年齢制限を45歳以下とし、国際的視野をもちグローバルな課題に向き合う研究プロジェクトを対象とするとともに、助成中の支援体制の強化などを目的に代表者の主たる居住地が日本であることを新たな要件として設けた。

公募の結果、応募総数152件のうち、採択案件が12件となった。医療・福祉、教育、自然環境・資源、都市計画、多様性・共生など、前年度に引き続き、さまざまな研究分野・領域のプロジェクトを採択することができた。そのなかでも本年は気候変動やエネルギー政策、人と自然の関係性など、自然環境・資源に関するものが目立った。

(1) テーマ： 「社会の新たな価値の創出をめざして」

(2) 公募期間： 2019年7月16日～9月13日

(3) 助成実績

上段：2019年度
(下段：2018年度)

応募件数	助成件数	助成金額(千円)	予算(千円)	採択率
152 (361)	12 (12)	60,000 (60,000)	60,000 (60,000)	7.9% (3.3%)

5. 国際助成プログラム

当年度も、2014年度以来の基本テーマ「アジアの共通課題と相互交流 ―学びあいから共感へ―」を継続した。具体的には、日本を含む東アジアと東南アジアの共通課題に対する「2国以上の地域実践者による国を越えた現場交流・課題解決」への助成を行った。助成領域については、(A)「異なる国籍や文化的背景を持つ多様な人々が共に暮らす社会」を重点領域とした。同時に(B)「オープン領域」を継続し、新規の社会課題の提起に引き続き門戸を開いた。主たる居住地が日本にある方を代表とする応募要件を設け、助成金額は昨年度同様7,000万円とした。

公募の結果、応募数は242件から147件に減少した。採択数は9件となった。

また、東京大学大学院博士課程教育リーディングプログラム 多文化共生・統合人間学プログラム(IHS)との共催により、2020年2月に「相互交流と学びあい」「多様なセクター間の対話」等をテーマとしたシンポジウムとワークショップを2日間にわたって開催した。研究者、修士・博士課程の学生、企業関係者、NGOや財団等の非営利セクター関係者等、多様なセクターより約130名の出席を得て、活発な議論が行われ、本プログラムの趣旨及び成果の周知を行った。

この他、前年度に引き続き各国の非営利セクター関係機関とのネットワークを活かし、幅広く情報の収集と発信を行った。2019年6月にシンガポールで開催されたAsian Venture Philanthropy Network(AVPN)カンファレンスへ参加した他、ロックフェラー財団とフォード財団が「アジアの市民社会」と「対話」をテーマにイタリアで開催した非公開会議に招聘され、参加した。

- (1)テーマ： 「アジアの共通課題と相互交流 ―学びあいから共感へ―」
 (2)サブテーマ：(A)異なる国籍や文化的背景を持つ多様な人々が共に暮らす社会
 (B)オープン領域
 (3)対象国： 東アジア・東南アジアの国・地域
 (4)公募期間： 2019年4月15日～6月8日
 (5)助成実績

上段：2019年度
 (下段：2018年度)

応募件数	助成件数	助成金額(千円)	予算(千円)	採択率
147 (242)	9 (11)	70,000 (70,000)	70,000 (70,000)	6.1% (4.5%)

《2019年度の内訳》

	応募件数	助成件数	助成金額(千円)	採択率
領域(A)	54件	3件	26,000	5.6%
領域(B)	93件	6件	44,000	6.5%
計	147件	9件	70,000	6.1%

6. イニシアティブプログラム

当年度も、NPOの基盤強化や市民参加など非営利セクターの発展に資するプロジェクトに対する助成を行うとともに、他組織との共同助成、民間財団として支援の意義が大きいと考えるプロジェクトなど、本プログラムの本来の目的である、将来の新しいプログラムの開発に資するためのプロジェクトを支援した。

具体的には、NPOの基盤強化に関する事業への助成を行うとともに(3件・1,260万円)、ユダヤ文化に関連する学術成果を一般に還元する事業(1件・597万円)、英国のチャリティ会計に関する調査・政策提言事業(1件・100万円)、第三のカテゴリー研究の種を発掘するプロジェクト(1件・300万円)、への支援を行うなど、民間財団として支援の意義が大きいと考えるプロジェクトへの助成を行った。

また国内助成プログラムのパイロットプログラムとして、市民の社会参加を促進するための【基盤強化助成】(6件・582万円)と【調査助成】(1件・300万円)もこのプログラムの枠にて行った。

○助成実績

上段：2019年度
(下段：2018年度)

	助成件数	助成金額(千円)	予算(千円)
イニシアティブプログラム	8 (7)	33,330 (56,720)	25,000 (45,000)
(国内助成プログラムパイロット)	7 (6)	8,820 (13,000)	10,000 (20,000)

7. 社会コミュニケーションプログラム

当年度も、全プログラムを対象に、過去に助成したプロジェクトの成果や手法などをインパクトのある形で社会に発信・普及させることを目的に助成対象の発掘を図った。

具体的には、国内助成プログラムにて過去に支援した公民館を通じて地域の課題解決を図る取り組みを活かし、公民館の再構築や公民館を含む社会教育機関の力量形成を目的とするプロジェクト(1件・850万円)への助成を行った。

○助成実績

上段：2019年度
(下段：2018年度)

助成件数	助成金額(千円)	予算(千円)
1 (5)	8,500 (18,790)	20,000 (20,000)

III. その他の活動

1. 広報活動

プログラム部門と連携した座談会等を企画し、その成果を広報誌(JOINT)誌面やウェブサイトが発信するなどプログラム部門との連携を強化した。併せて年次報告書(和・英)も発行した。

	刊行日	特集タイトル	発行部数
第30号	2019年4月12日	先端技術と共創する社会	5,000
第31号	2019年10月25日	多文化ニッポンの未来図	
第32号	2020年1月24日	日常から意識する「防災」	

2. 報告会の開催

助成対象者間のネットワーク作り、研究や事業に関する情報交換、助成プロジェクトの成果向上などを目的に報告会を開催した。開催概要は以下のとおり。

開催日	タイトル	開催地	参加者
2019年4月12日	特定課題「先端技術」助成対象者ワークショップ	東京	助成対象者など約20名
2019年4月13日	研究助成プログラム助成対象者ワークショップ	東京	助成対象者など約20名
2019年4月13日	国内助成プログラム2017年度助成対象者中間報告会	東京	助成対象者など約30名
2019年8月27日	国内助成プログラム「しらべる」2018年度助成対象者ワークショップ	東京	助成対象者など約30名
2019年9月23日	特定課題「先端技術」2018年度助成対象者中間報告会	東京	助成対象者など約40名
2019年10月26日	国際助成プログラム助成対象者ワークショップ	東京	助成対象者など約20名
2020年2月7日 ～8日	国際助成プログラム助成プロジェクト活動報告会「学びあいから共感へー私たちはいかに社会と対話してきたか」	東京	助成対象者・東大HIS関係者などのべ約130名
2020年3月9日・10日・13日・17日	国内助成プログラム2019年度助成対象者助成開始前研修	WEB	助成対象者16名

NPOの組織基盤強化を図ることを目的として前年度より実施している、トヨタ自動車のマネジメントノウハウを学ぶ講座トヨタNPOカレッジ「カイケツ」の開催概要は以下のとおり。

	開催日	開催地	参加者
第1回	2019年5月13日	東京	20団体・30名
第2回	2019年5月14日		
第3回	2019年6月13日		
第4回	2019年7月18日		
第5回	2019年8月8日		
最終報告会	2019年11月29日		

IV. 会議実績

理事会

第47回理事会〔2019年6月7日(金)〕

1. 平成30年度(平成30年4月1日～平成31年3月31日)事業報告(案)及び決算(案)の承認の件
2. 役員候補(案)について
3. 第19回評議員会の日時・場所・目的である事項について

第48回理事会〔2019年6月25日(火)〕

1. 代表理事選定の件
2. 理事長選定の件
3. 理事長の役員報酬額について
4. 前理事長の退職慰労金額について
5. イニシアティブプログラム等選考委員について

第49回理事会〔2019年9月20日(金)〕

1. 2019年度 国際助成プログラム助成対象の決定について
2. 特定課題「外国人受け入れに関する助成プログラム」企画概要について
3. 特定課題「外国人受け入れに関する助成プログラム」選考委員の選任について
4. 役員候補(案)について
5. 第20回評議員会の日時・場所・目的である事項について
6. トヨタ財団「行動指針」の策定及び就業規則の一部改定について

報告事項

1. 会長・理事長・常務理事の職務執行状況について
2. 国際助成プログラム助成金贈呈式について

第50回理事会(書面)〔2019年10月25日(金)〕

1. 業務執行理事選定の件
2. 常務理事選定の件

第51回理事会〔2019年12月11日(水)〕

1. 2019年度 イニシアティブプログラム助成対象の決定について
2. 市民の社会参加促進プログラムの企画概要について
3. 選考委員の選任について
(特定課題「先端技術と共創する新たな人間社会」、イニシアティブプログラム等)
4. 2019年度 会計監査人監査報酬について

第 52 回理事会〔2020 年 2 月 17 日(月)〕

1. 2019 年度 国内助成プログラム助成対象の決定について
2. 2019 年度 研究助成プログラム助成対象の決定について
3. 2019 年度 イニシアティブプログラム助成対象の決定について
4. 第 21 回評議員会の日時・場所・目的である事項について

第 53 回理事会〔2020 年 3 月 18 日(火)〕

1. 2019 年度 特定課題「先端技術と共創する新たな人間社会」助成対象の決定について
2. 2019 年度 特定課題「外国人材の受け入れと日本社会」助成対象の決定について
3. 2019 年度 国内助成パイロットプログラム助成対象の決定について
4. 2019 年度 イニシアティブプログラム助成対象の決定について
5. 2019 年度 社会コミュニケーションプログラム助成対象の決定について
6. 2020 年度(2020 年 4 月 1 日～2021 年 3 月 31 日)事業計画書(案)及び収支予算書等(案)について
7. 選考委員の選任について

(国内助成プログラム・国際助成プログラム・イニシアティブプログラム等)

報告事項

1. 会長・理事長・常務理事の職務執行状況について

評 議 員 会

第 19 回評議員会〔2019 年 6 月 25 日(火)〕

1. 平成 30 年度(平成 30 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日)事業報告(案)及び決算(案)の承認の件
2. 役員選任の件

第 20 回評議員会(書面)〔2019 年 10 月 8 日(火)〕

1. 役員選任の件

第 21 回評議員会(書面)〔2020 年 3 月 27 日(金)〕

報告事項

1. 2020 年度(2020 年 4 月 1 日～2021 年 3 月 31 日)事業計画及び収支予算書等について

理事懇談会

第 1 回理事懇談会	2019 年 9 月 20 日(金)
第 2 回理事懇談会	2019 年 12 月 11 日(水)
第 3 回理事懇談会	2020 年 2 月 17 日(月)

特定課題「先端技術と共創する新たな人間社会」選考委員会

選考委員会 2020年 2月14日(金)

特定課題「外国人材の受け入れと日本社会」選考委員会

選考準備会 2019年12月24日(火)

選考委員会 2020年 1月30日(木)

国内助成プログラム選考委員会

選考委員会 2020年 1月16日(木)

研究助成プログラム選考委員会

選考準備会 2019年11月19日(火)

選考委員会 2020年 1月17日(金)

国際助成プログラム選考委員会

選考準備会 2019年 7月 8日(月)

選考委員会 2019年 7月30日(火)

イニシアティブプログラム等選考委員会

第1回 選考委員会 2019年11月27日(水)

第2回 選考委員会 2020年 1月29日(水)

第3回 選考委員会 2020年 2月26日(水)

助成金贈呈式

研究助成・国内助成プログラム 2019年 4月12日(金)
(於ハイアットリージェンシー東京)

国際助成プログラム 2019年10月25日(金)
(於ハイアットリージェンシー東京)

V. 附属明細書

2019年度事業報告には、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則第34条第3項にて規定される「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので、附属明細書は作成しない。